景況感 2期連続改善

自動車部品製造業が急回復

中小企業景気動向調査（10～12月期）

当金庫が行った2020年10～12月期の「中小企業景気動向調査」の結果がまとまった。

調査期間は11月20日から12月7日。調査対象はお取引先企業1010社。回答社数925社。（回答率91・6％）

業況

企業の景況感を表す業況判断DI（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）は、全産業でマイナス36・5。前回調査にくらべ改善した。米国や中国の自動車市場が回復しつつあり、自動車部品製造業とその関連業種が牽引した。改善は2四半期連続。改善幅の24・8ポイントは、1989年の調査開始以来最大。

ただし、水準としては低い。新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、このさき楽観できる状況にはない。

―製造業―

自動車部品は大幅に改善して、マイナス4・7。海外向け需要の持ち直しに加え、国内販売も回復基調にあり、景況感が急回復している。足元の売上・収益も上向いている。「4～6月の買い控えの反動で、アフターパーツの受注が増加している」との声もあった。

機械器具部品は12・4ポイント改善し、マイナス68・6。改善は2017年10～12月以来、3年ぶり。次期（1～3月期）も改善が予想されており、ようやく底を打った感がある。ただ、DIはマイナス領域にあり、低調な状況は否めない。

そのほか、金属製品、窯業・土石、繊維製品、印刷は改善。木材・木製品は横ばい、食料品は悪化した。

―非製造業―

卸売業はマイナス40・2。前回調査にくらべ改善した。しかし、自動車生産に関連する商品以外の動きはまだ戻っていない。在庫が積み上がっている企業もみられる。

小売業は29・3ポイント改善し、マイナス20・7。外出機会が少なくなっているためか、「家庭のLPガスの消費量が増えている」「普段以上にペットが売れている」といった声が聞かれた。

飲食業も改善。改善は1年ぶり。だが、水準は深いマイナス領域にあり、マインドは好転していない。感染の再拡大で先行きを懸念する飲食店も少なくない。

建設業はマイナス23・7。11・4ポイント改善した。公共工事が需要期にあり、その関連企業のなかには繁忙感もみられる。住宅建設もやや持ち直している。ストップしていた工事が、ここにきて動き出したケースもあるという。

不動産業はマイナス38・3。11・7ポイント改善した。

運輸業は61・1ポイント改善して、マイナス16・1。改善幅は過去最大。自動車生産が回復したことで、部品のトラック輸送が持ち直した格好。人手不足を訴える企業が再び増えはじめている。

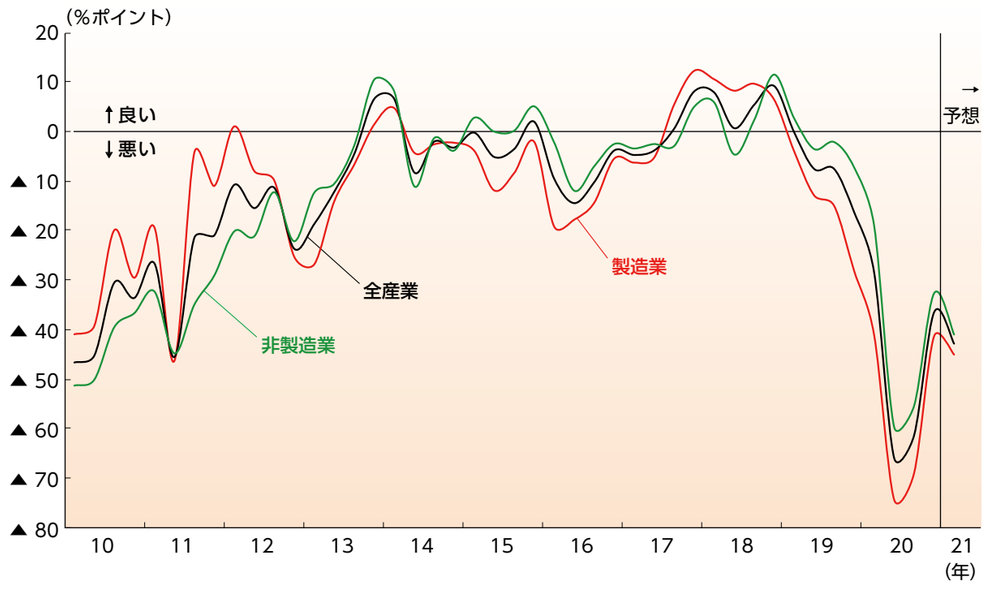
サービス業はマイナス40・7。大幅に改善したが、未だ水面下にあってマインドは冴えない。法人向けサービス、個人向けサービス、ともに減収減益を余儀なくされている。

見通し

業況判断見通しDIは、全産業で6・3ポイントの悪化。

新型コロナウイルスの感染は、第3波が到来し、今のところ終息の道筋は見えていない。不透明な情勢のなか、先行きを警戒する企業が増えている。

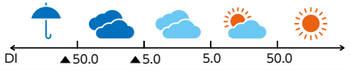
業況判断DI（「良い」-「悪い」）



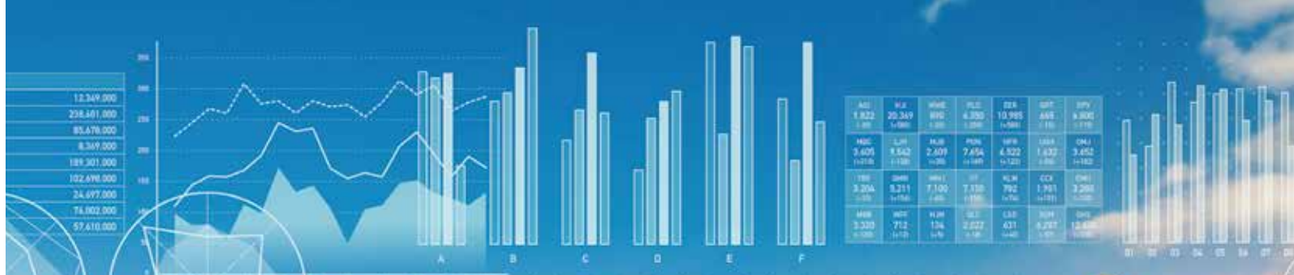
最近の経済動向

業種別天気図（数値は業況判断DI）

〔天気マークの見方〕



業　種	7～9月期（前回）	10～12月期（今回）	1～3月期（予想）	業　種	7～9月期（前回）	10～12月期（今回）	1～3月期（予想）
全産業	▲61.3	▲36.5	▲42.8	印　刷	▲100.0	▲83.3	▲83.3
製造業	▲68.9	▲41.3	▲45.0	食料品	▲27.3	▲50.0	▲50.0
非製造業	▲55.5	▲32.8	▲41.1	卸売業	▲61.9	▲40.2	▲40.4
自動車部品	▲66.6	▲4.7	▲19.8	小売業	▲50.0	▲20.7	▲46.1
機械器具部品	▲81.0	▲68.6	▲59.7	飲食業	▲90.9	▲76.2	▲76.2
金属製品	▲54.6	▲40.7	▲43.8	建設業	▲35.1	▲23.7	▲36.5
窯業・土石	▲72.2	▲38.9	▲61.1	不動産業	▲50.0	▲38.3	▲37.5
木材・木製品	▲33.3	▲33.3	▲50.0	運輸業	▲77.2	▲16.1	▲26.6
繊維製品	▲65.3	▲36.3	▲47.6	サービス業	▲68.4	▲40.7	▲44.2



特別調査

「2021年の経営見通し」

当金庫が11月下旬から12月上旬に実施した「経営見通し」のアンケート結果がまとまった。新型コロナウイルスの第3波が到来するなか、2021年は厳しい見方をする経営者が少なくない。

アンケートの対象はお取引先企業 1,010社。回答社数 925社。

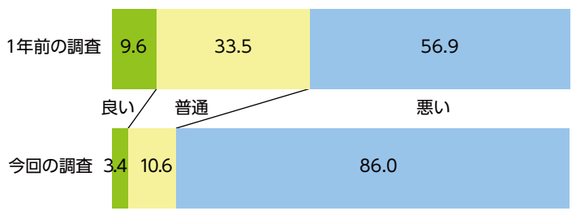
日本の景気見通し

悲観的な見方が大勢

まずは2021年の日本の景気をどのように見通しているかについて聞いている。

「良い」が3・4％、「普通」が10・6％、「悪い」が86・0％となった。1年前の調査にくらべ「良い」が減少するとともに「悪い」が大幅に増加している。

日本の景気見通し



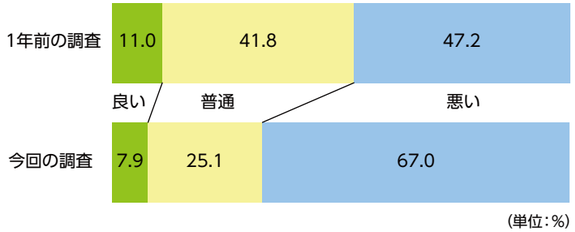
(単位：%)

自社の業況見通し

「悪い」の回答が過半

自社の業況見通しについては、「良い」が7・9％、「普通」が25・1％、「悪い」が67・0％となった。これを業種別にみると、全業種で「悪い」の回答が増加、とくに飲食業では9割を超えている。本調査は毎年行っているが、「悪い」が50％を上回るのは8年ぶり。

自社の業況見通し



(単位：%)

売上額の増減見通し

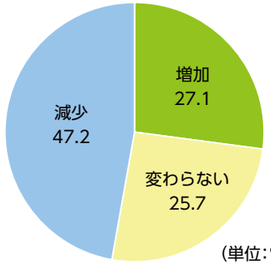
減少傾向続く

売上額の増減見通しについては、「増える」が27・1％、「減る」が47・2％となり、「減る」が「増える」を大幅に上回った。前年調査時、「減る」は41・3％だったので、厳しい見方をする企業が増えている。

足元では新型コロナウイルスの感染が再拡大している。不透明な情勢が続くとみる向きが少なくない。

ただ、自動車部品製造業だけは、「増える」と回答した企業が半数を超えた（53・8％）。海外向けの需要が回復しはじめていることが主因。

売上額の増減見通し



(単位：%)

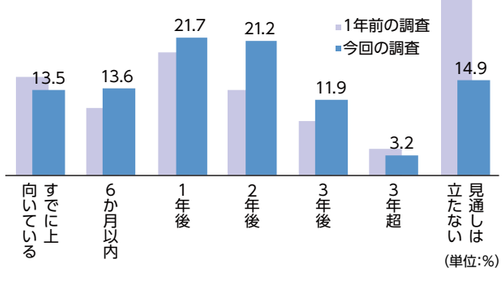
業況が上向く転換点

上向いている13・5％

業況が上向く転換点はいつ頃になりそうかとの問に対しては、「すでに上向いている」が13・5％、「6か月以内」が13・6％、「1年後」が21・7％、「2年後」が21・2％などとなった。

先進国の一部でワクチン接種が始まったが、パンデミックが終息するには、まだ時間が掛かるとみられ、先行き慎重に構える企業が多い。

業況が上向く転換点



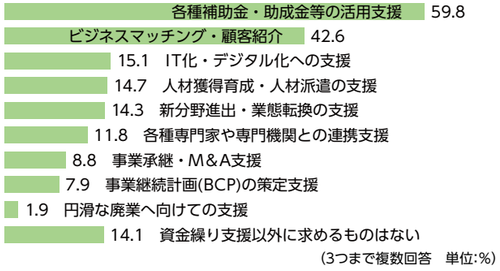
(単位：%)

地域金融機関に求めること

補助金等の活用支援を

新型コロナウイルスが蔓延するなか、中小企業が地域金融機関に求めることは何かについて、最も多かったのは「各種補助金・助成金等の活用支援」で59・8％。次いで「ビジネスマッチング・顧客紹介」（42・6％）。以下、「IT化・デジタル化への支援」（15・1％）、「人材獲得育成・人材派遣の支援」（14・7％）と続いた。

地域金融機関に求めること



(3つまで複数回答　単位：%)

お客様から寄せられた声

- コロナの影響で業績が低迷していたが、海外からの発注が増えて、忙しくなった。（自動車部品製造）
- 中国向け医療機器の新規受注があった。（アルミ部品加工）
- 巣ごもり需要やテレワークで、室内植物の特需があった。（観葉植物）
- 感染拡大により、顧客訪問がしづらくなり、情報収集ができない。営業力の低下を懸念している。（運輸業）
- デジタル化の推進で業務改善意識が向上し、売上に影響した。（不動産業）
- 感染第3波の影響がジワジワ出ている。（歯科医院）
- 換気工事の受注が増えている。（配管設備の設計施工）
- ウィズコロナに向けて、経営スタイルを急ピッチで再構築していく。（ソフト販売）